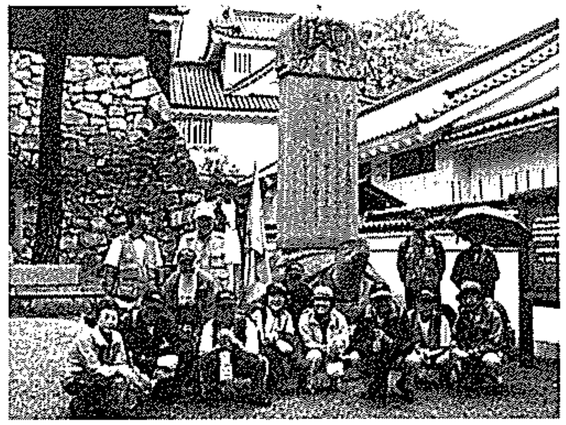
電車どおりパトロール

2009年（平成21年）6月・7月・8月（第18号）

電車どおりの住民がご近所のネットワークを活かしまち歩きを楽しくするオススメポイントをご紹介。

21世紀の朝鮮通信使が

ソウル東京友情ウォーク 5月8日、岡崎を満喫！

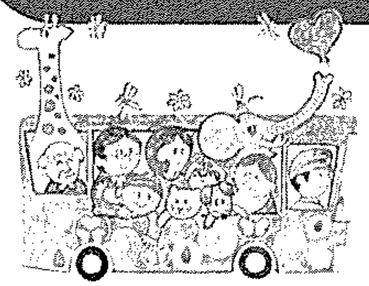


"ソウル東京友情ウォーク"とは、江戸時代の第1回朝鮮通信使（親善使節）の来日から400年目となる2007年に「21世紀の朝鮮通信使」を合言葉に、日韓のウォーキング協会が協力し、ソウルから東京までの1,129kmを46日かけて歩き切った壮大な企画。中心メンバーは20人ほどで、途中参加者が加わり30人から50人がシンボル旗を掲げ1日1日を歩き抜きました。今回はその第2回目で、韓国で新たに確認された山道コースを選んだため距離は1,145km、日程も50日とより過酷なウォークとなりました。4月1日にソウルを出発した一行は途中、江戸時代の朝鮮通信使ゆかりの史跡を訪れながら互いの友情を深め、5月20日に無事ゴールとなる東京の江戸城（皇居）に到着しました。

徳川日本と李氏朝鮮の間に260年の平和の歴史

隣国同士は戦争の歴史が世界の常識。徳川家康公が文禄・慶長の役（豊臣秀吉の朝鮮侵略）の謝罪から始めた李氏朝鮮との善隣友好は、江戸幕府により世界史に類の無い平和の歴史を打ち立てることとなりました。今回の友情ウォークにおけるソウルから釜山までの道中で、日本側メンバーたちは韓国での家康公の人気の高さには驚いたと言います。

まちバスは200円で1日たっぷり乗り放題！電車どおり5商店街におこしください。



■発行
電車どおり5商店街
○能見北発展会
○本町晴明ストリート
○岡崎銀座商店街振興組合
○殿橋通発展会
○岡崎明大寺商店街振興組合
■協力
岡崎商工会議所
岡崎市観光協会
街情報ステーション
■編集協力
おかざき塾
三河・岡崎のタウン誌「リバーシブル」

東照公遺訓碑に大感激

日本では地味で面白みが無いという理由で家康公の人気は今一つですが、ソウル東京友情ウォークのような相互交流が積み重ねられていけば、家康公や江戸時代に対する評価はより高くなっていくに違いありません。2011年には既に第3回目の友情ウォークが予定されています。左の写真は東照公遺訓碑前でのウォークメンバーの記念写真です。

電車どおり5商店街も善隣友好の歴史を商品化

岡崎には朝鮮通信使ゆかりの歴史エピソードが二つあります。一つは家康公生誕の地が岡崎であることから、来日した通信使が最初に将軍の使者から正式な歓迎の挨拶を受ける場所が伝馬町の「御馳走屋敷（岡信資料館前）」であったことです。もう一つは接待を担当した鳥山牛之助という代官が、第7次朝鮮通信使（1682年）の金指南から、この回の中で最も心のこもった接待をしたという最高の評価を得たことです。電車どおり5商店街は先ず鳥山牛之助のエピソードを取り上げ、土人形と焼印煎餅として具体化しました。土人形はほのぼのとした作風で知られる画家の柄澤照文氏に依頼したところ、鳥山牛之助と金指南が手を握り合う可愛らしい人形となりました。また、焼印煎餅には鳥山牛之助が金指南を接待をする図柄の上下に、「三河武士」「朝鮮通信使」と「FRIENDSHIP」「OKAZAKI GINZA」の文字を入れ、「歴史うんちく煎餅」の一つとして、エピソードの内容がよく分かるよう工夫しています。当面はイベント時に無料で配布し、将来は各商店街において販売する予定です。